

畑作病虫害防除指針

目 次

畑作物改正事項一覧表	2
1 小麦	3
2 なたね	7
3 だいず	8
4 あずき	14
5 いんげんまめ	16

防除方法に記載された農薬には、それぞれのRACコードを()書きで示していますので、農薬を選択する際の参考としてください。

畑作改正事項一覧表

作物名	病害虫名	改正事項	改正内容
だいず ^ス いす ^ス	べと病	防除方法 掲載農薬一覧	フェスティバルM水和剤を削除

1 小麦

(1) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
なまぐさ黒穂病 は種前	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 [薬剤による防除法] 1 次のいずれかによって種子消毒を行う。 ベンレート水和剤20(F:M03, 1) ホーマイ水和剤(F:M03, 1)	○ 粉衣消毒の場合、必ず乾燥状態のよい種子を使う。 ○ 薬剤で種子消毒した種子は、家畜の飼料にしない。
裸黒穂病 は種前 出穂後	[耕種的防除法] 1 次の方法で種子消毒を行う。 (1) 冷水温湯浸法 種子を冷水に7時間予浸後、52℃の温湯に5分間浸漬し、冷却、陰干ししてからは種する。 2 病穂を早期に抜き取り処分する。	
立枯病 は種前	[耕種的防除法] 1 連作を避け3～4年の輪作を行う。 2 排水を行い、深耕する。 3 石灰及び硝酸態窒素の過用は避ける。	
雪腐病 は種前 根雪前・消雪時 は種前 根雪前 (11月中旬～下旬)	[耕種的防除法] 1 適期には種する。 2 基肥窒素を適量施用する。 3 排水に努める。 [薬剤による防除法] 1 次のいずれかによって種子消毒する。 ベフラン液剤25(F:M07)【紅色雪腐病】 キンセット水和剤80(F:M01)【紅色雪腐病】 アミスター20フロアブル(F:11)【紅色雪腐病】 2 次の薬剤のいずれかを散布する。 (1) 紅色雪腐病 ベフラン液剤25(F:M07) (2) 紅色雪腐病、雪腐褐色小粒菌核病 オキシンドー水和剤80(F:M01) キノンドー水和剤80(F:M01) キンセット水和剤80(F:M01) ベフキノン水和剤(F:M07, M01) フロンサイド水和剤(F:29) フロンサイドSC(F:29) (3) 雪腐褐色小粒菌核病 キノンドー水和剤40(F:M01) バシタック水和剤75(F:7) リゾレックス水和剤(F:14) リゾレックス粉剤(F:14) (4) 褐色雪腐病 ランマンフロアブル(F:21)	○ 雪腐病とは紅色雪腐病、雪腐大粒菌核病、雪腐褐色小粒菌核病、雪腐黒色小粒菌核病、褐色雪腐病の総称である。 ○ コムギ紅色雪腐病では、チオファネートメチル剤(ベンゾイミダゾール系殺菌剤)に対する耐性菌が県内に広域に分布している。 ○ 雪腐褐色小粒菌核病対象薬剤は、雪腐黒色小粒菌核病も対象に含む。 ○ 散布後に一度積もった雪が解けても再散布の必要はない。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
<p>うどんこ病</p> <p>は種前</p> <p>春の蔓延期</p>	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 窒素質肥料の過用を避ける。</p> <p>2 遅まき、厚まきをしない。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 発生初期と7～10日後の2回位、次のいずれかを散布する。</p> <p>石灰硫黄合剤 (F:M02, I:UN)</p> <p>水和硫黄剤 (F:M02, I:UN)</p> <p>カリグリーン (F:NC)</p> <p>トリフミン水和剤 (F:3)</p> <p>シルバキュアフロアブル (F:3)</p> <p>ワークアップフロアブル (F:3)</p> <p>ストロビーフロアブル (F:11)</p> <p>アミスター20フロアブル (F:11)</p> <p>トップジンM水和剤 (F:1)</p> <p>スミトップM粉剤 (F:1, I:1B)</p> <p>2 無人航空機散布</p> <p>次の薬剤のいずれかを所定量散布する。</p> <p>シルバキュアフロアブル (F:3)</p> <p>ワークアップフロアブル (F:3)</p>	<p>○ チオファネートメチル剤(ベンゾイミダゾール系殺菌剤)は、耐性菌が出易いので連用しない。</p> <p>[水和硫黄剤]</p> <p>サルファーゾル、イオウフロアブル</p> <p>○ 薬剤散布を1回しか行わない場合は、止葉直下葉でのうどんこ病の発生直後に以下の薬剤を散布すると、上位2葉における発生を少なく抑えることができ、収量・品質低下に対する影響も小さく抑えられる。</p> <p>(トリフミン水和剤、シルバキュアフロアブル、ストロビーフロアブル、アミスター20フロアブル、トップジンM水和剤)</p> <p>○ 出穂後は、アミスター20フロアブルを使用しない(赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例あり)。</p> <p>○ シルバキュアフロアブルは、アブラナ科野菜(特にはくさい、だいこん)に対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意する。</p> <p>○ 無人航空機で散布する場合は、以下の事項に留意する。</p> <p>(1) 現地混用による危害等が発生しないよう、単用散布を原則とする。</p> <p>(2) 散布農薬の飛散によって動植物への危被害、自動車の塗装等への被害が生じるおそれがあるので、散布区域内の諸物件の位置等を事前に確認する。また、水源池、飲料水、養魚池、養魚田等に散布液が流入しないように飛散防止対策を行う。</p> <p>(3) 散布時の風速が3.0m/sec以上では散布域外への飛散が問題となるので、散布は行わない。</p>
<p>赤さび病</p> <p>は種前</p> <p>春の蔓延期</p>	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 早まきは避ける。</p> <p>2 窒素質肥料の過用を避ける。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>バシタック水和剤75 (F:7)</p> <p>アフェットフロアブル (F:7)</p> <p>石灰硫黄合剤 (F:M02, I:UN)</p> <p>水和硫黄剤 (F:M02, I:UN)</p> <p>ワークアップフロアブル (F:3)</p> <p>ストロビーフロアブル (F:11)</p> <p>2 無人航空機散布</p> <p>ワークアップフロアブル (F:3) を所定量散布する。</p>	<p>[水和硫黄剤]</p> <p>サルファーゾル、イオウフロアブル</p>

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
赤かび病 は種前 開花始め～乳熟期	<p>[耕種的防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発病ほ場の種子を使用しない。 2 窒素質肥料を過用しない。 <p>[薬剤による防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開花始め～開花期に1回、その7日後に1回、次のいずれかの薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤(F:M02, I:UN) 水和硫黄剤(F:M02, I:UN) ベフラン液剤25(F:M07) トリフミン水和剤(F:3) シルバキュアフロアブル(F:3) ワークアップフロアブル(F:3) ストロビーフロアブル(F:11) トップジンM水和剤(F:1) トップジンM粉剤D L(F:1) スミトップM粉剤(F:1, I:1B) 2 無人航空機散布 開花始め～開花期に1回、その後7日後に1回、次の薬剤のいずれかを所定量散布する。 シルバキュアフロアブル(F:3) ワークアップフロアブル(F:3) トップジンMゾル(F:1) 	<p>○ 被害麦は有害であるので、家畜の飼料としない。</p> <p>○ シルバキュアフロアブルは、アブラナ科野菜(特にはくさい、だいこん)に対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意する。</p> <p>○ チオファネートメチル剤(ベンゾイミダゾール系殺菌剤)は、耐性菌が出易いので連用しない。</p> <p>[水和硫黄剤] サルファーゾル、イオウフロアブル</p> <p>○ 左記の2回散布を基本とし、その後に曇雨天が続く場合には登録の範囲内で追加防除を行う(地上散布剤の使用も考慮する)。</p> <p>○ その他の無人航空機による散布に関する留意事項はうどんこ病の項参照。</p>
北地モザイク病 生育全期	<p>[耕種的防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発病株を早期に抜き取る。 2 ほ場周辺のスズメノカタビラなどの雑草を除去する。 	
黄化萎縮病 生育全期	<p>[耕種的防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ほ場周囲のイネ科雑草の駆除に努める。 2 浸水、冠水のしやすいところでは早期排水ができるよう排水路を整備する。 	
黒節病 は種前 収穫後	<p>[耕種的防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発病の多いほ場では、2～3年麦を作付しない。 2 無発病ほ場から採種する。 3 適期には種する。 4 被害わらは畑に残さず、処分する。 	
ハモグリバエ類 5月下旬～ 6月上旬		○ 幼虫が葉に潜孔し、袋状に加害する。
アブラムシ類 出穂期前後	<p>[薬剤による防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 次の薬剤のいずれかを散布する。 スミトップM粉剤(F:1, I:1B) スミチオン乳剤(I:1B) スミチオン粉剤2 D L(I:1B) 	○ スミチオン乳剤を散布すると、ハモグリバエ類の防除は不要である。
アワヨトウ 生育全期	<p>[薬剤による防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤(I:1B) エルサン乳剤(I:1B) 	
バクガ 収穫前後	<p>[耕種的防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 収穫、調製、乾燥は早目に行う。 2 低温貯蔵(15℃以下)及び粒の水分を13%以下とする。 	

(2) 掲載農薬一覧 (小麦)

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名							
				なまぐさ 黒穂病	雪腐病	うどんこ病	赤さび病	赤かび病	アブラムシ類	アワヨトウ	バクガ
ベンレートT水和剤20	M03		チウラム	○							
	1		ベノミル								
ホームイ水和剤	M03		チウラム	○							
	1		チオファネートメチル								
ベフラン液剤25	M07		イミノクタジン酢酸塩	○				○			
ベフキノン水和剤	M07		イミノクタジン酢酸塩	○							
	M01		有機銅								
オキシンドー水和剤80	M01		有機銅	○							
キノンドー水和剤80	M01		有機銅	○							
キノンドー水和剤40	M01		有機銅	○							
キンセット水和剤80	M01		有機銅	○							
	M01		水酸化第二銅								
フロンスайд水和剤	29		フルアジナム	○							
フロンスайдSC	29		フルアジナム	○							
バシタック水和剤75	7		メプロニル	○			○				
アフェットフロアブル	7		ベンチオピラド				○				
リゾレックス水和剤	14		トルクロホスメチル	○							
リゾレックス粉剤	14		トルクロホスメチル	○							
ランマンフロアブル	21		シアゾファミド	○							
アミスター20フロアブル	11		アゾキシストロビン	○	○						
石灰硫黄合剤	M02	UN	石灰硫黄合剤			○	○	○			
水和硫黄剤*	M02	UN	硫黄			○	○	○			
カリグリーン	NC		炭酸水素カリウム			○					
トリフミン水和剤	3		トリフルミゾール			○		○			
シルバキュアフロアブル	3		テブコナゾール			○		○			
ワークアップフロアブル	3		メトコナゾール			○	○	○			
ストロビーフロアブル	11		クレソキシムメチル			○	○	○			
トップジンM水和剤	1		チオファネートメチル			○		○			
トップジンM粉剤DL	1		チオファネートメチル					○			
トップジンMゾル	1		チオファネートメチル					○			
スミトップM粉剤	1B		ME P			○		○	○		
	1		チオファネートメチル								
スミチオン乳剤		1B	ME P						○	○	
スミチオン粉剤2DL		1B	ME P						○		
エルサン乳剤		1B	P A P							○	

*水和硫黄剤：イオウフロアブル、サルファーゾル

2 なたね

(1) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
菌核病 は種前 収穫後	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 2 種子を比重1.05で比重選を行い、菌核を除去する。 3 跡地は表土10cm以上の深さにすきこむ。 4 被害茎葉を集めて処分する。	
白さび病 は種前 収穫後	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 2 被害茎葉を集めて処分する。	
黒斑細菌病 は種前	[耕種的防除法] 1 激発地では、は種期を遅らせる。	
空洞病 は種前 生育全期	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 2 窒素質肥料の過用を避け、苗に傷をつけないようにする。 3 被害株は早く抜き取り処分する。	
雪腐菌核病 は種前	[耕種的防除法] 1 深耕して菌核を土中深く埋める。	

3 だいず

(1) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
モザイク病 萎縮病 は種前 生育全期	[耕種的防除法] 1 抵抗性品種を栽培する。 2 無病株の種子を用いる。 3 褐斑粒のある株の種子は、保毒しているから採種しない。 4 生育初期に発病株を抜き取る。 [薬剤による防除法] 1 アブラムシ類の防除を行う。	○ ワセズナリ、ズカリ、オキシロメは強い。 おおすずは弱い。 ○ 本病は、種子及びアブラムシによって伝播される。
わい化病 は種時～ 生育全期	[薬剤による防除法] 1 アブラムシ類の防除を行う。	○ 本病原ウイルスは、汁液伝染や種子伝染はしないが、ジャガイモヒゲナガアブラムシによって永続的伝播をする。 ○ 発生地では、アブラムシ防除を徹底する。
立枯性病害 (黒根腐病) は種前	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 2 排水を図る。	
茎疫病 は種前	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 2 排水を図る。 [薬剤による防除法] 1 乾燥種子 1 kg 当たりクルーザーMAXX (F:12, 4, I:4A) を塗沫処理する。	
紫斑病 は種前 収穫期 〔種子消毒〕 は種前 開花期後 20～40日	[耕種的防除法] 1 無病の種子を用いる。 2 適期収穫を行い、乾燥をすみやかに行う。 [薬剤による防除法] 1 次のいずれかの薬剤により、種子消毒する。 ベンレートT水和剤20 (F:M03, 1) ホームイ水和剤 (F:M03, 1) キヒゲンR-2フロアブル (F:M03) ゲッター水和剤 (F:10, 1) 2 次の薬剤のいずれかを散布する。 ペンコゼブ水和剤 (F:M03, I:UN) プランダム乳剤25 (F:3) ゲッター水和剤 (F:10, 1) ニマイバー水和剤 (F:10, 1) アミスター20フロアブル (F:11) ファンタジスタフロアブル (F:11) プロポーズ顆粒水和剤 (F:40, M05) トライトレボン粉剤DL (F:U16, I:3A) トライフロアブル (F:U16) 3 無人航空機散布 次の薬剤のいずれかを所定量散布する。 プランダム乳剤25 (F:3) ※無人ヘリコプター散布 アミスター20フロアブル (F:11) ファンタジスタフロアブル (F:11) ニマイバー水和剤 (F:10, 1)	○ 耐性菌対策 (1) 同一系統剤 (同じRACコードの剤) の連用は耐性菌の発生のリスクを高める。 (2) チオファネートメチル剤、ベノミル剤、アゾキシストロビン剤に対する耐性菌が県内にも分布しているので注意する。耐性菌に対しては、これらの薬剤は効果が劣る。 ○ 散布液の飛散により、転作作物に薬害が生ずることがあるので十分注意する。 ○ その他の注意事項は小麦のうどんこ病を参照。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
<p>べと病</p> <p>は種前</p> <p>生育全期</p>	<p>[耕種的防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 連作を避ける。 2 無病の種子を用いる。 3 密植を避ける。 4 排水に努める。 <p>[薬剤による防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発病初期から7～10日おき位に数回、次の薬剤のいずれかを散布する。 <p>アミスター20フロアブル(F:11) ホライズンドライフロアブル(F:27, 11) カーゼートP Z水和剤(F:27, M03, I:UN) マンゼブ水和剤(F:M03, I:UN) リドミルゴールドMZ(F:M03, 4, I:UN) ランマンフロアブル(F:21) ライメイフロアブル(F:21) プロポーズ顆粒水和剤(F:40, M05) ベトファイター顆粒水和剤(F:40, 27) レーバスフロアブル(F:40)</p>	<p>○ 「おおすず」では、開花期の10～20日後頃で、なるべく降雨日前後のいずれかに薬剤散布を1回行うと、べと病粒の形成を効果的に低減させることができる。ただし、この時期の散布であっても、降雨日から離れた散布では効果が下がる。</p> <p>[マンゼブ水和剤] ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤</p>
<p>炭疽病</p> <p>収穫後</p> <p>生育全期</p>	<p>[耕種的防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 被害茎葉を集めて土中深く埋める。 <p>[薬剤による防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発病初期から硫酸銅(F:M01)を規定の濃度のボルドー液に調整し、2回散布する。 	
<p>黒とう病</p> <p>は種前</p>	<p>[耕種的防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 抵抗性の強い品種を栽培する。 2 種子は無病地から採種したものをを用いる。 	<p>○ スズカリ、オクシロメは抵抗性が強い。</p>
<p>ダイズシスト</p> <p>センチュウ</p> <p>は種前</p>	<p>[耕種的防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マメ科作物以外の輪作を行う。 2 後作に対抗植物のクリムソクローバやクロタラリアを散播作付して、線虫密度を低下させる。 3 クリムソクローバのは種量は、ばらまきの場合で4kg/10aとし、は種後3ヶ月間栽培してからすき込む。春播きの場合、5月上中旬には種し、8月上中旬の開花期頃(草丈30cmを目安)にすき込む。夏播きの場合、8月上中旬には種し、11月上中旬頃または翌年春にすき込む。 4 クロタラリアのは種量はばらまきで8～12kg/10aとし、平均気温18℃前後を目安として5月中旬以降には種し、11月降霜後に枯れ込んでからすき込む。 <p>[薬剤による防除法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テロン(D-D97%)(I:8A)を土壌処理する。 	<p>○ ワセスズナリ、スズカリ、オクシロメは強く、おおすずは弱い。</p> <p>○ だいでやえだまめに生育不良及び茎葉の黄化症状を認めた場合には、植物検診や土壌検診を行い、ダイズシストセンチュウの寄生の有無を確認する。</p> <p>○ クリムソクローバ(和名:ベニバナツメクサ)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 緑肥用種子を用いる。一般種子でも線虫密度の低減効果が期待できる。 (2) 種子が小さく、覆土が厚いと発芽率が低下するので、覆土は種子がかくれる程度で、耕起しないで鎮圧する。 (3) すき込みはロータリ耕起で数回行う。 <p>○ クロタラリア(俗称:コブトリソウ)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 緑肥用種子を用い、覆土は浅くロータリ耕起する。 (2) すき込み時期は開花期以降となるが、栽培期間が短いと線虫密度の低減効果が劣る場合がある。暖地系の緑肥作物であり、十分な生育量を確保する必要がある。 (3) クリムソクローバに比べ草丈が大きいいため、降霜前にすき込む場合には、チョッパー等で裁断し乾かしてからすき込む。 <p>○ 注入時の地温によって異なるが、薬剤注入の1～2週間後に必ずガス抜きを行い、薬剤の残臭のないことを確かめてからは種する。ガス抜きが不十分な場合は、発芽不良や生育の遅延を起こすことがあるので注意する。</p> <p>○ 薬剤注入後の地温は、15℃以上が望ましい。</p>

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
タネバエ は種前 は種時	[薬剤による防除法] 1 乾燥種子にクルーザーF S30(I:4A)又はクルーザーMAXX(I:4A,F:12,4)を塗沫処理する。 2 カルホス粉剤(I:1B)を作条施用土壌混和、ダイアジノン粒剤3(I:1B)又はカルホス微粒剤F(I:1B)を土壌混和する。	
コガネムシ類 (幼虫) は種時 (成虫) 生育期	[薬剤による防除法] 1 次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 ダイアジノン粒剤3(I:1B) ダイアジノン粒剤5(I:1B) 2 ヨーバルフロアブル(I:28)を散布する。	○ 成虫による葉の食害は7月下旬～8月下旬頃に見られる。
アブラムシ類 は種前 発生初期	[薬剤による防除法] 1 乾燥種子にクルーザーF S30(I:4A)又はクルーザーMAXX(I:4A,F:12,4)を塗沫処理する。 2 次の薬剤のいずれかを散布する。 エルサン乳剤(I:1B) スミチオン乳剤(I:1B) マラソン乳剤(I:1B) マラソン粉剤3(I:1B) オルトラン水和剤(I:1B) トレボン乳剤(I:3A) アディオン乳剤(I:3A) アクタラ顆粒水和剤(I:4A) ウララDF(I:29) ベネビアOD(I:28) 3 無人航空機散布 ベネビアOD(I:28)を所定量を散布する。	○ キヒゲンR-2フロアブルや種子粉衣剤と併用する場合は、クルーザーF S30を先に処理する。 ○ スミチオン乳剤を散布するとウリハムシモドキ、コガネムシ類(成虫)、コフキゾウムシの防除は不要である。
ウリハムシ モドキ		○ 本虫による被害は、発芽後～生育初期に多い。
コフキゾウムシ		○ 成虫は6月中旬～8月下旬に発生し、葉を食害する。
ジャガイモヒゲ ナガアブラムシ 発生初期	[薬剤による防除法] 1 アグロスリン乳剤(I:3A)を散布する。	
マメヒメ サヤムシガ 7月中～下旬 と子実肥大期	[薬剤による防除法] 1 パーマチオン水和剤(I:1B,3A)を散布する。	
ダイズサヤ タマバエ 開花後期～ 莢の伸長初期	[薬剤による防除法] 1 スミトップM粉剤(I:1B,F:1)を散布する。 2 無人航空機散布 スミチオン乳剤(I:1B)の所定量を散布する。	○ 注意事項は小麦のうどんこ病の項参照。
シロイチモジ マダラメイガ 着莢期～ 子実肥大初期	[薬剤による防除法] 1 次の薬剤を散布する。 スミトップM粉剤(I:1B,F:1) パーマチオン水和剤(I:1B,3A) 2 無人航空機散布 スミチオン乳剤(I:1B)の所定量を散布する。	
カメムシ類 着莢期～ 子実肥大中期	[薬剤による防除法] 1 トライトレボン粉剤DL(I:3A,F:U16)を散布する。 2 無人航空機散布 トレボンスカイMC(I:3A)の所定量を散布する。 ※無人ヘリコプター散布	○ 注意事項は小麦のうどんこ病の項参照。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
<p>マメシクイガ 成虫発生最盛期 ～産卵最盛期 (8月5半旬～ 9月1半旬)</p> <p>産卵最盛期～ ふ化最盛期 (8月6半旬～ 9月2半旬)</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 早生種は8月5半旬、中晩生種は8月6半旬～9月1半旬に1回、次のいずれかの薬剤を散布する。ただし、多発生の場合には散布時期を早め、8月5半旬に1回とその7日後に2回目の散布を行う。</p> <p>トクチオン乳剤 (I:1B) パーマチオン水和剤 (I:1B, 3A) トレボン乳剤 (I:3A) トレボンMC (I:3A) トレボン粉剤DL (I:3A) アミスタートレボンSE (I:3A, F:11) アディオン乳剤 (I:3A) アグロスリン乳剤 (I:3A) モスピランSL液剤 (I:4A) モスピラン顆粒水溶剤 (I:4A) プレバソンフロアブル5 (I:28) ベネビアOD (I:28) グレーシア乳剤 (I:30) トライトレボン粉剤DL (F:U16, I:3A)</p> <p>2 無人航空機散布 1の茎葉散布方法に準じて、次のいずれかの所定量を散布する。</p> <p>トレボンスカイMC (I:3A) ※無人ヘリコプター散布 アディオン乳剤 (I:3A) プレバソンフロアブル5 (I:28) ベネビアOD (I:28)</p> <p>3 早生種は8月6半旬とその7日後の2回、中晩生種は9月1半旬とその7日後の2回、次のいずれかの薬剤を散布する。</p> <p>エルサン乳剤 (I:1B) スミチオン乳剤 (I:1B) ダーズバン乳剤40 (I:1B) エルサン粉剤2 (I:1B) ダイアジノン粒剤5 (I:1B) スミトップM粉剤 (I:1B, F:1)</p>	<p>○ パーマチオン水和剤を散布するとフタスジヒメハムシ、ツメクサガ及び早生種のカメムシ類(中晩生種は除く)の子実害虫の防除は不要である。</p> <p>○ 多発圃場において無人航空機でプレバソンフロアブル5を散布する場合は8月第4半旬に本剤を16～24倍で散布し、8月第6半旬に本剤または他薬剤を追加散布する。</p> <p>○ 注意事項は小麦のうどんこ病の項参照。</p>
<p>フタスジヒメハムシ</p>		<p>○ 本虫による被害は、発芽後～生育初期と8月下旬～9月下旬に見られる。</p>
<p>ツメクサガ</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 カスケード乳剤 (I:15) を散布する。</p>	<p>○ 幼虫による食害は、6月中旬～9月中旬に見られる。</p>
<p>ハダニ類 発生初期</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 マラソン乳剤 (I:1B) を散布する。</p>	
<p>ウコンノメイガ 発生初期</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>スミチオン乳剤 (I:1B) トレボン乳剤 (I:3A) アディオン乳剤 (I:3A) カスケード乳剤 (I:15) ヨーバルフロアブル (I:28) フェニックスフロアブル (I:28) プレバソンフロアブル5 (I:28) グレーシア乳剤 (I:30)</p> <p>2 無人航空機散布 プレバソンフロアブル5 (I:28) の所定量を散布する。</p>	<p>○ 本虫は7月中旬以降に飛来して来るが、発生量の年次変動が大きい。</p> <p>○ 幼虫食害による葉巻症状は7月下旬～8月上旬と8月下旬～9月上旬頃に見られる。</p>
<p>ハスモンヨトウ 発生初期</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 無人航空機散布 次の薬剤のいずれかの所定量を散布する。</p> <p>トレボンエアー (I:3A) トレボンスカイMC (I:3A)</p>	<p>○ 注意事項は小麦のうどんこ病の項参照。</p>

(2) 掲載農薬一覧 (だいで)

農薬名	FRACコード	IRACコード	有効成分	適用病害虫名											
				紫斑病	炭疽病	べと病	茎疫病	マメシシクイガ	カメムシ類	タネバエ	コガネムシ類(幼虫)	ダイズサヤマバエ	シロイチモジマダラメイガ	アブラムシ類	ウコンノメイガ
ベンレートT水和剤20	M03		チウラム	○											
	1		ベノミル												
ホームイ水和剤	M03		チウラム	○											
	1		チオファネートメチル												
キヒゲンR-2フロアブル	M03		チウラム	○											
硫酸銅(ボルドー液用)	M01		硫酸銅五水塩	○	○										
ブランダム乳剤25	3		ジフェノコナゾール	○											
ゲッター水和剤	10		ジエトフェンカルブ	○											
	1		チオファネートメチル												
ニマイパー水和剤	10		ジエトフェンカルブ	○											
	1		ベノミル												
アミスター20フロアブル	11		アゾキシストロピン	○	○										
ファンタジスタフロアブル	11		ビリベンカルブ	○											
ホライズンドライフロアブル	27		シモキサニル			○									
	11		ファモキサドン												
カーゼートPZ水和剤	27		シモキサニル			○									
	M03	UN	マンゼブ												
ジマンダイセン水和剤	M03	UN	マンゼブ			○									
ペンコゼブ水和剤	M03	UN	マンゼブ	○	○										
リドミルゴールドMZ	M03	UN	マンゼブ			○									
	4		メトラキシルM												
ランマンフロアブル	21		シアゾファミド			○									
ライメイフロアブル	21		アミスルプロム			○									
プロポーズ顆粒水和剤	40		ベンチアバリカルブイソプロピル	○	○										
	M05		T P N												
ベトファイター顆粒水和剤	40		ベンチアバリカルブイソプロピル			○									
	27		シモキサニル												
レーバスフロアブル	40		マンジプロパミド			○									
トライトレボン粉剤DL	U16		テブフロキン	○				○	○						
		3A	エトフェンプロックス												
トライフロアブル	U16		テブフロキン	○											

農薬名	FRACコード	IRACコード	有効成分	適用病害虫名															
				茎疫病	タネバエ	アブラムシ類	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	マメシクイガ	ダイズサヤタバエ	シロイチモジマダラメイガ	コガネムシ類(幼虫)	コガネムシ類(成虫)	カメムシ類	ハダニ類	ツメクサガ	ウコンノメイガ	ハスモンヨトウ	マメヒメサヤムシガ	
カルホス粉剤		1B	イソキサチオン		○														
カルホス微粒剤F		1B	イソキサチオン		○														
ダイアジノン粒剤3		1B	ダイアジノン		○						○								
ダイアジノン粒剤5		1B	ダイアジノン					○		○									
クルーザーF S30		4A	チアメトキサム		○	○													
クルーザーMAXX		4A	チアメトキサム																
		12	フルジオキシニル	○	○	○													
		4	メタラキシルM																
アクタラ顆粒水溶剤		4A	チアメトキサム			○													
ウララDF		29	フロニカミド			○													
エルサン粉剤2		1B	PAP					○											
エルサン乳剤		1B	PAP			○		○											
スミトップM粉剤		1B	MEP					○	○	○									
		1	チオファネートメチル																
スミチオン乳剤		1B	MEP			○		○	○	○							○		
マラソン乳剤		1B	マラソン			○							○						
マラソン粉剤3		1B	マラソン			○													
オルトラン水和剤		1B	アセフェート			○													
ダーズバン乳剤40		1B	クロルピリホス					○											
トクチオン乳剤		1B	プロチオホス					○											
パーマチオン水和剤		1B	MEP					○		○			○						○
		3A	フェンバレレート																
アグロスリン乳剤		3A	シペルメトリン				○	○											
トレボン乳剤		3A	エトフェンプロックス			○		○									○		
トレボンMC		3A	エトフェンプロックス					○											
トレボン粉剤DL		3A	エトフェンプロックス					○					○						
トレボンエアー		3A	エトフェンプロックス															○	
トレボンスカイMC		3A	エトフェンプロックス					○					○					○	
アミスタートレボンSE		11	アゾキシストロビン					○											
		3A	エトフェンプロックス																
アディオン乳剤		3A	ペルメトリン			○		○									○		
モスピランSL液剤		4A	アセタミプリド					○											
モスピラン顆粒水溶剤		4A	アセタミプリド					○											
エクシードフロアブル		4C	スルホキサフロル										○						
カスケード乳剤		15	フルフェノクスロン												○	○			
ヨーバルフロアブル		28	テトラニプロール									○				○			
フェニックスフロアブル		28	フルベンジアミド													○			
プレバゾンフロアブル5		28	クロラントラニプロール					○								○			
ベネビアOD		28	シアントラニプロール			○		○											
グレーシア乳剤		30	フルキサメタミド					○									○		

4 あずき

(1) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
立枯病 〔種子消毒〕 は種前	[薬剤による防除法] 1 チウラム80(F:M03)を種子粉衣する。	
モザイク病 は種前 生育全期	[耕種的防除法] 1 無病株の種子を用いる。 2 生育初期に発病株を抜き取る。 3 アブラムシの防除を行う。	
葉焼病 は種前 採種時 収穫後	[耕種的防除法] 1 連作を避け、ほ場の排水をよくする。 2 できるだけ遅くは種し、密植は避ける。 3 健全株から採種する。 4 被害茎葉は集めて処分する。	
炭疽病 生育全期 収穫後	[耕種的防除法] 1 被害茎葉は集めて土中深く埋める。	
さび病 は種前 収穫後	[耕種的防除法] 1 連作を避ける。 2 被害茎葉は集めて処分する。	
タネバエ は種時	[薬剤による防除法] 1 ダイアジノン粒剤 3 (I:1B)を全面施用し、土とよく混和しては種する。	
アブラムシ類 発生初期	[薬剤による防除法] 1 次の薬剤のいずれかを散布する。 エルサン乳剤(I:1B) オルトラン水和剤(I:1B) スミチオン乳剤(I:1B) マラソン乳剤(I:1B)	
アズキノメイガ (フキノメイガ) 7月下旬～ 8月中旬	[薬剤による防除法] 1 成虫発生期～産卵期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エルサン乳剤(I:1B) オルトラン水和剤(I:1B) スミチオン乳剤(I:1B) アディオオン乳剤(I:3A) トレボン粉剤D L (I:3A) アグロスリン乳剤(I:3A)※	※ アグロスリン乳剤はノメイガ類での登録
ハダニ類 発生初期	[薬剤による防除法] 1 次の薬剤のいずれかを散布する。 ダニトロンフロアブル(I:21A) ニツラン水和剤(I:10A)	

(2) 掲載農薬一覧 (あずき)

農薬名	F R A C コ ー ド	I R A C コ ー ド	有効成分	適用病害虫名						
				立 枯 病	タ ネ バ エ	ア ブ ラ ム シ 類	フ キ ノ メ イ ガ	ア ズ キ ノ メ イ ガ	ハ ダ ニ 類	
チウラム80	M03		チウラム	○						
ダイアジノン粒剤3		1B	ダイアジノン		○					
エルサン乳剤		1B	P A P			○	○			
オルトラン水和剤		1B	アセフェート			○	○			
スミチオン乳剤		1B	M E P			○	○			
マラソン乳剤		1B	マラソン			○				
アディオオン乳剤		3A	ペルメトリン					○		
アグロスリン乳剤		3A	シペルメトリン						○	
トレボン粉剤DL		3A	エトフェンプロックス					○		
ダニトロンフロアブル		21A	フェンピロキシメート							○
ニッソラン水和剤		10A	ヘキシチアゾクス							○

5 いんげんまめ

(1) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
かさ枯病 は種前 生育全期 生育全期	[耕種の防除法] 1 無病種子を用いる。 2 病株の早期抜き取りを行う。 [薬剤による防除法] 1 発芽直後から7月中旬にかけて10～15日おきに2～3回、銅水和剤を散布する。 ドイツボルドーA (F:M01)	○ 発病は金時類に多く、また土壌水分の多いところに発生が多い。
炭疽病 は種前 生育全期 収穫後 生育全期	[耕種の防除法] 1 抵抗性品種を栽培する。 2 連作を避け、肥料切れがないよう注意する。 3 被害茎葉は集めて処分する。 [薬剤による防除法] 1 発病期から幼莢期までの間に1回、オーソサイド水和剤80 (F:M04)を散布する。	
菌核病 生育全期	[薬剤による防除法] 1 初発期から次の薬剤のいずれかを散布する。 トップジンM水和剤 (F:1) ベンレート水和剤 (F:1)	
タネバエ は種時	[薬剤による防除法] 1 所定量のダイアジノン粒剤3 (I:1B)を土壌混和する。	

(2) 掲載農薬一覧 (いんげんまめ)

農薬名	F R A C C o d e	I R A C C o d e	有効成分	適用病害虫名			
				かさ枯病	炭疽病	菌核病	タネバエ
ドイツボルドーA	M01		塩基性塩化銅	○			
オーソサイド水和剤80	M04		キャプタン		○		
トップジンM水和剤	1		チオファネートメチル			○	
ベンレート水和剤	1		ペノミル			○	
ダイアジノン粒剤3		1B	ダイアジノン				○